

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570500233		
法人名	社会福祉法人 ときわ会		
事業所名	グループホームひなもり	ユニット名	花町
所在地	宮崎県小林市堤4380番地		
自己評価作成日	平成26年10月31日	評価結果市町村受理日	平成27年1月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/45/index.php?action=kouhou_detail_2010_022_kihontrue&UjeyoNoCd=4570500233-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成26年11月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・四季を感じて頂けるように、利用者の意向を取り入れながら季節に合ったイベントを取り入れている。 ・利用者と家族と一緒に食事を摂ることができるように取り組んでいる。 ・グループホーム東側には温室ハウスや果樹園があり、沢山の果物を見たり、食べたりと楽しむ事ができ、日頃の散歩コースにもなっている。 ・併設施設と連携し、温泉浴を行っている。 ・併設施設の行事にも参加できる体制がある。 ・外出、買い物希望がある時は家族へ連絡し、一緒に行く事ができるように支援している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>平成15年3月に社会福祉法人が開設した3ユニットのグループホームである。同敷地内に介護老人福祉施設や高齢者関連事業所があり、法人全体で利用者の見守りをし、法人の利点を生かした運営がなされている。今年4月に作成した新しい理念は、「すべての利用者によるこびをすべての家族にあんしんを地域社会との豊かな絆をつくる」を掲げ、全職員が理念の実践に懸命に取り組んでいる。ホームの中では、利用者の「ありがとう」、職員の「ありがとうございます」という声が聞かれ、一人ひとりの人格を尊重した自然体のケアが行われている。トイレの木製の引き戸、居室の障子や襖など、家庭的な環境の下で利用者は地域の一人として過ごしている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	花町	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を職員の目の届く所に掲げ、いつでも確認し意識できるようにしている。		今年4月に、法人全職員が意見を出し合って新しい理念を作成している。朝礼で唱和、名札に入れて常に携帯するなど理念を大切に、日常の言葉使いや態度で実践するように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	希望により美容室へ行ったり、購入したい物があれば、車にて近くのお店に買い物へ行っている。園内で移動販売車での買い物も行っている。		理念の中に「地域社会との豊かな絆をつくる」と掲げ、地域とのつきあいを重視している。利用者が地域で開催されている介護予防教室に参加したり、保育園児と交流するなどの取り組みをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ハッスル教室、わいわいクラブへの参加を行い、地域との交流を図っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの取り組み報告、事故・ヒヤリ報告、意見交換会を行い、情報交換している。その中に、防災訓練、読み聞かせなどを行い、一緒に参加して頂き、サービスの向上に努めている。		会議では活動報告、事故報告、行事報告等を行い、意見交換をしている。災害時には地域の消防団の活動が重要であるとの意見が出て、協力体制を進めることにしており、会議を運営に生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて活動内容報告をしている。市町村担当者に困った時など相談している。		市担当者が運営推進会議に出席、また、定期的に来訪しており、ホームの運営状況を伝える機会として活用している。利用者に関する相談をするなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の状態把握、ケアの工夫を行い身体拘束ゼロに取り組んでいる。身体拘束廃止委員会を中心に身体拘束ゼロの手引きを作成し、事業所内で自己啓発に努めている。		玄関の施錠はしておらず、センサーもなく、見守りと対応の工夫で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束ゼロの手引きを作成し、職員の理解を深めるように努めている。法人敷地内の各事業所間の協力体制もできており、見守りに役立っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃がされることのないよう注意を払い、防止に努めている	言葉遣いについては、朝礼等で声掛けし、職員同士で注意し合える環境をつくっている。定例会議を通じ虐待防止の意識を持ち、資料等を利用し、事業所内で自己啓発に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	花町	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族からの希望により、成年後見制度利用のために必要な主治医意見書作成の受診支援を行っている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、不明点を確認し、契約書、重要事項の説明を行い、理解・納得して頂いた上で署名、捺印を頂いている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、要望や意見などを聞けるよう心掛けている。アンケートを年一回実施し、意見を反映している。スマイルボックスの設置、運営推進会議議事録も自由に閲覧できるようにしている。	家族会による居室の障子紙の張り替え作業時等を活用して、コミュニケーションを図っている。アンケートを毎年3月に実施し、意見や要望を聞いている。利用者と同じ食事を家族も味わいたいとの要望があり、クリスマス会での会食が実現している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に意見を出しやすい環境づくりをしている。朝礼時、定例会議にて職員の意見を聞き、話し合いを行い、運営に反映させている。小さな事でも報告・連絡・相談を心掛けている。	月1回の定例会議には法人のグループホーム担当課長も出席している。意見を出しやすい環境にあり、イベントに関する提案や小さな掃除用具を導入することで、利用者も掃除が可能になるなど、意見を運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりが業務に対して責任を持つ事で、仕事にやりがいを持てるようにしている。資格取得に向けても法人の理解、支援があり、働きやすい職場環境に努めている。年1回の職員満足度調査を実施している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で、新人職員研修、施設内勉強会、職員に合わせた外部研修に参加し、自己研鑽に努めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県西ブロックの定例会、研修会に参加している。良い所は取り入れ、サービスの向上に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	花町	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人にどうしたいか、何に困っているかを聞き、気持ちを理解し安心してもらえるように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と面談を行い、見学に来て頂き要望やご意見を確認し、安心して入所できるように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネジャー(計画作成担当者を含む)と相談、連携を図り、本人の為に何が必要かを考え、対応するように努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬し、昔の経験等を傾聴しながら、信頼関係の構築に努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話等で状況の報告を行い、家族の意向を聞きながら関係を築いている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が希望する馴染みの場所へ行けるよう、家族の協力を得ながら努めている。近くの神社や家族の協力をもらい自宅へ帰り、本人のなじみの場所に行けるよう努めている。	なじみの美容室に通い続ける利用者は、家族が同行できない場合は職員が同行し、関係継続を支援している。友人や近所の人の来訪もあり、居室等での会話を楽しむことができるよう支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや行事等を通じて、孤立しないように、声掛けしながら楽しめるように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	花町	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も本人や家族が気軽に立ち寄れるように関係を大切にしている。長期入院になってもお見舞いに行ったり、家族からの必要な支援依頼があれば行っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で、本人の希望を理解し、希望に応えられるように取り組んでいる。	アセスメントをきちんと行い、生活歴や職歴を参考にし、日々の会話の中で意向の把握に努めている。困難な場合は、家族やなじみの人の来訪時に話を聞いて、情報収集に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、家族、本人からの情報で生活歴、病歴等を聴き、これまでの暮らしぶりを把握している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事や一日の状況をスタッフ全員で共有するように努めている。日々の経過記録、チェック表にて、一人ひとりの状態把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族のアセスメントを行い、介護計画を作成している。サービス提供を行い短期目標を達成できたか、できなかったのか評価を行っている。	アセスメントを行い、本人、家族の意見を聞き、担当職員と計画作成担当者が話し合い、家族等の意見を反映させた介護計画を作成している。モニタリングもきちんと行われている。介護計画と日常のケアの整合性が経過記録では不足している。	介護計画と日常のケアの整合性について全職員が再度確認し、経過記録にも明確に記載し、共有することで、更なるケアの質の向上を期待したい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や経過、情報などは記録しているが、気づきや工夫などは申し送りノートにて情報交換し、ケアに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に応じて、病院受診や外出をしている。			

宮崎県小林市 グループホームひなもり(花町)

自己	外部	項目	自己評価	花町	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安心して暮らせるように、地域の方や消防、警察に連携を図っている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の意向に合わせ、かかりつけ医との情報提供や共有を行っている。県外の家族には職員が対応し、受診後には家族に結果を報告している。	入居後も従来のかかりつけ医に継続して受診できるように支援している。受診は家族が同行し、結果を報告してもらっている。家族が同行できない場合は職員が同行し、結果を報告している。緊急時にもかかりつけ医の協力が得られるように関係を築いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃のバイタルチェックや状態観察、体調不良・事故発生時等の看護・主治医との連携を取り、安心感のある生活を送ってもらい、日常的に健康の維持が出来る体制を整えている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の的確な情報提供のために、日頃からの状態観察や記録の充実を図っている。 職員の病院訪問や病院関係者へ電話連絡を行い、情報交換を行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者本人・ご家族の意向について入所時にはもちろん、日頃からの聞き取りも行い、重度化、終末期の支援について、対応できる体制を整えている。	重度化や終末期について、契約時に家族等に説明し、方針を共有している。「緊急時・延命に関する意思の確認について」意思確認書を作成している。利用者の状況変化に応じて家族と話し合い、意向に沿って対応できる体制を整えている。医療機関の協力も得られるように取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時に、一人ひとり適切な行動がとれるように、職場内勉強会で緊急時対応の勉強を行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定例会議や避難訓練で災害対策、避難経路の確認を行っている。	定期的に避難訓練を実施し、夜間を想定した訓練も行っている。同敷地内にある法人の事業所間の協力体制もあり、備蓄もある。運営推進会議でも防災訓練を取り入れ、地域の消防団にも協力を得ることにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	花町	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から、利用者の方には丁寧な言葉遣いを心掛けている。人生の先輩である意識を持ち、相手の立場に立って対応を行っている。		接客5大用語を掲げ、職員は丁寧な言葉かけに努めている。排泄介助、入浴介助においてもプライバシーに配慮した対応をしている。食事介助では、人格を尊重したさりげないケアを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の様子を観察し、本人の希望を把握や自己決定が出来るように努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは決まっているが、本人のペースを尊重し、希望を聞きながら支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪を染めたり、髪型を変えたり、服装も本人の着たい服を選び、お洒落ができるように支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べ物の大きさなど本人の希望に合わせて変更し、食べやすいように工夫している。配食準備や味見、下膳など、出来る所は一緒に行っている。		主菜は敷地内の施設で一括調理している。主食、汁物、小鉢はホームの台所で作り、家庭的な雰囲気の中で職員(弁当)も一緒に食事をしている。外食や毎月の誕生会など、食事を楽しむ支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事状況をみながら、食欲の無い方には好みの物や補助食品等で対応している。水分も補水液やお茶ゼリー、牛乳ゼリーにて水分補給を行っている。水分量は一日1500ccを目安に水分補給を行っている。食事、水分チェック表にて、一人ひとりの摂取量を把握し支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア、義歯洗浄は職員が見守りながら行っている。また、介助が必要な方は介助を行っている。義歯洗浄剤を使用し、清潔保持に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	花町	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツは使用せず、出来る限りトイレでの排泄を促している。本人の排泄パターンを把握し、個々に合わせたトイレ誘導、介助を行っている。	トイレの入り口は木製の引き戸で、表示も分かりやすく工夫している。おむつは使用せず、トイレ誘導により、排泄の自立支援に取り組んでいる。介助が必要なケースでは、プライバシーに配慮した対応をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック、個々の排泄パターンを把握している。水分もチェック表にて摂取量を確認し、工夫しながら補給している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回を基本としているが、希望があればその都度入浴し、個々に合った支援をしている。温泉に入りたいという希望があれば、温泉を利用している。	入浴は週3回にしているが、柔軟に対応している。ゆっくり長湯をしたい利用者は順番を後にしたり、拒否傾向がある場合は、声かけや時間を変更するなど工夫をしている。敷地内に温泉があり、温泉を楽しむ支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない時はホールにてテレビ鑑賞されたり、飲み物を提供し、眠れるまで好きな場所で過ごせるよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供書を確認し、効果、副作用を理解し、状態把握に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ピクニックやバーベキュー、ソーメン流し、ドライブなど、季節感を感じて頂けるように、利用者だけでなく家族への参加の声掛けを行い、一緒に気分転換ができるように支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望があれば、外出、買い物に出掛けている。美容院、外食など、本人の希望を把握しながら支援している。	敷地内に温室ハウスや果樹園があり、日常の散歩コースになっている。月1回の外出行事を計画し、りんご狩りに出掛けるなどの外出支援に取り組んでいる。本人の希望を把握し、家族の協力を得て外出ができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	花町	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が欲しい物を購入できる機会を図り、必要時はお金を渡し、好きな物を購入している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの手紙や連絡があった際は、本人へ確認し対応している。電話での返事もできる方は、本人と一緒に電話を行い、家族との関係づくりを行っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、ホールに季節の花を飾り、季節感を感じて頂くように工夫している。中庭にも花を植えて、利用者に居心地よく過ごせるようにしている。月1回、安全衛生委員による職場巡視を行っている。	法人の安全衛生委員による職場巡視が月に1回行われ、照明、採光、温度、湿度、換気等について点検し、居心地よく過ごせる空間づくりに努めている。木材を多用したホームは、畳室や障子など生活感のある環境になるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間を複数設け、利用者が選択出来るように工夫している。廊下の角にある腰掛けや畳間など、利用者がいつでもくつろいだり、話ができる場所となっている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドを全居室、低床電動ベッドに変更し、安心、安全面の配慮を行った。自宅で使用していた物を持って来られたり、その方に応じて支援している。	木製の窓や引き戸、障子や襖など、利用者が落ち着いて生活できる環境づくりをしている。居室には、テレビや使い慣れた家具を配置し、自宅と同じような感覚で過ごせるように支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活が出来るように、手すりを設置している。利用者が分かりやすいように、表示は文字を大きく見えやすい位置に表示している。			